

授業・教育改善における 学生参加

服部憲児(全学教育推進機構)
(リーダーシップ教育研究会120830)

学生参加型FD・教育改善の動向

- 政策文書：廣中レポート／学士課程答申
- 学生参加型FD・教育改善の位置付け

大学教育政策の2つの重要ポイントの交点

学生重視：「ティーチングからラーニング」

×

FD推進：FD義務化（大学設置基準）

学生参加型FD・教育改善の動向

○授業の一部としての学生参加

○学生参画を全面に押し出した授業

○授業外での教育活動への学生参加

(○授業選択によるカリキュラム編成の最終決定)

※「教育」は「授業」だけではない。

※授業での参加 → 教育改善への参加

1. 学生参加型の授業

①通常の授業(大人数授業)での学生参加

○橋本勝:「橋本メソッドー150人ゼミ」

○木野茂:「大人数双方向型授業」

○大門正幸:「全員先生方式」

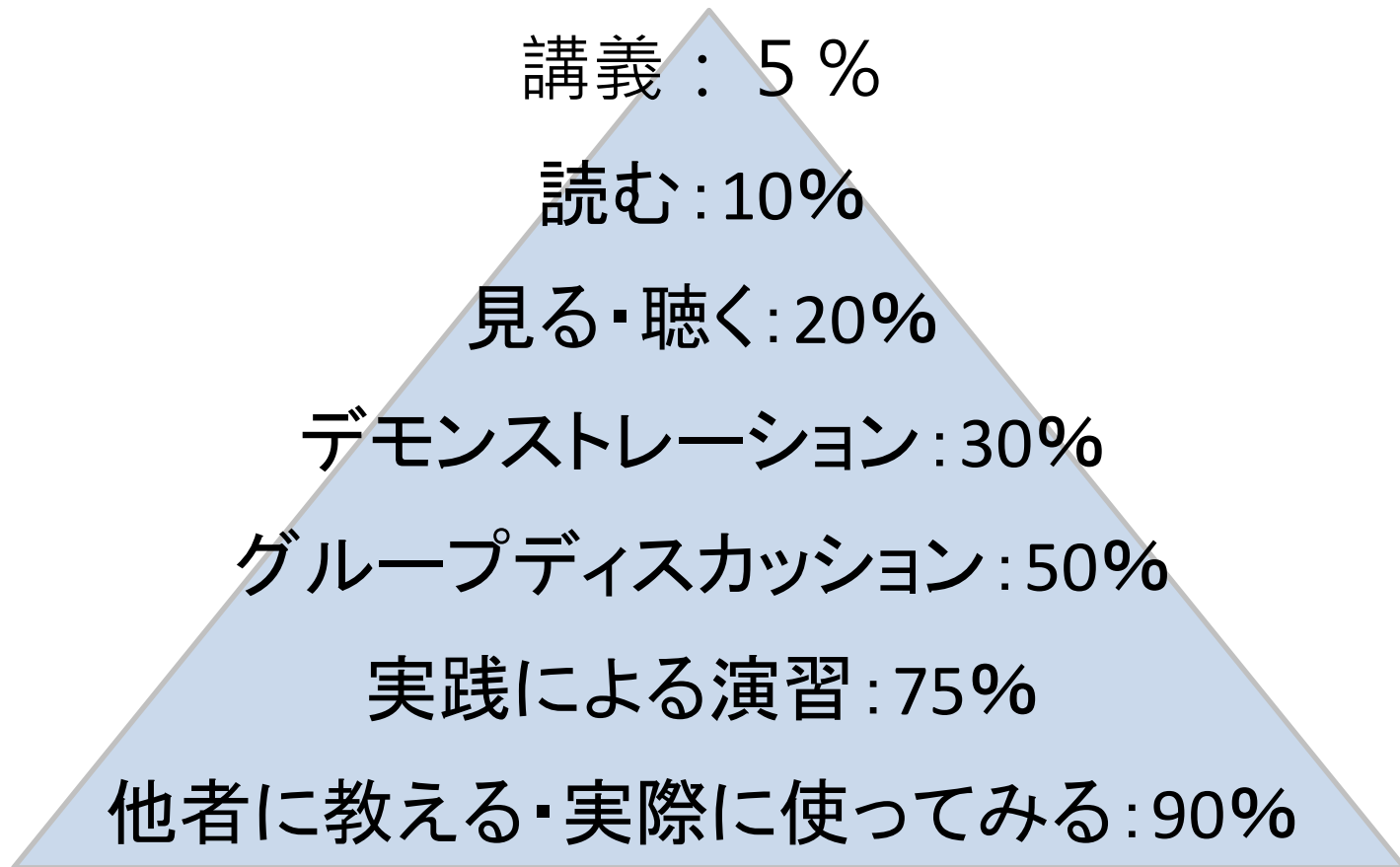
○鈴木久男:クリッカーを活用した授業

⇒学生が主体的・能動的に授業に参画する。

伝達量: **減**

定着率: **増**

学習ピラミッドと記憶の定着率



1. 学生参加型の授業

②学生参加を基本とした授業の開設

- 学生参加型の授業をさらに追究...

→学生がテーマを設定して自発的に研究し、
教員が支援する。

○和歌山大学:「自主演習」科目

○大阪大学:「Discovery Seminar」

2. 学生提案の授業

- 岡山大学:「ドラえものの科学」など
- 和歌山大学 大分大学 関西大学
京都文教大学 札幌大学 広島経済大学 など
- 大阪大学
「文系学生のための科学実験」
「双方向型シラバスを作ろう」

※把握できていない分も多くあるだろう。

3. 学生参加によるFD・教育改善

授業の枠外での学生参画の取組

- ・学生参加型の大学教育改善の試み。

→FD活動の一環と位置づけられるケースが多い。

○岡山大学：学生・教職員教育改善委員会

○山形大学ほか：学生FD会議

○立命館大学：学生FDスタッフ

○大阪大学：パンキョー革命（学生・教職員懇談会）

リーダーシップ教育の観点から

1. 学生が授業に参加すれば、リーダーシップが育つ。
2. 学生が授業づくりに参加すれば、リーダーシップが育つ。
3. 学生が教育改善に主体的に関われば、リーダーシップが育つ。

リーダーシップ教育の観点から

単位の切れ目が
縁の切れ目...？

⇒可能性が高いのは「3」ではないか。

分析／整理／議論／コミュニケーション／目標設定
／解決／説得／調整

ex.「阪大生活」の作成、シラバス改善プロジェクト

※目標設定や設計次第では「1」「2」でも可能

「『主体的に行動する意識』は他の意識・能力に比べると、長い経験を積まなければ身につかないものであり、この意識がついたと自覚するようになるには、約3年以上の経験を積む必要がある」(安田・近田:2009)

学生参加型FD・教育改善の課題

学生参加型FDの3法則

- ①呼応の法則
- ②高比熱の法則
- ③低感染力の法則

参加学生の3法則

- ①刹那の法則
- ②親不孝の法則
- ③自由人の法則

学生参加型FD・教育改善の課題

3つの課題

- ①スタッフの確保 —組織的不安定性—
- ②活動の広がりにくさ —無関心・批判・孤立感—
- ③学生の主体性と教職員の関与

参考文献

- ・小田隆治・杉原真晃編『学生主体型授業の冒険』(ナカニシヤ出版、2010年)。
- ・木野茂「教員と学生による双方向型授業—多人数講義系授業のパラダイムの転換を求めて—」『京都大学高等教育研究』第15号(2009年)。
- ・木野茂「学生とともに進めるFD」『大学教育学会誌』第32巻第2号(2010年)。
- ・木野茂編『大学を変える、学生が変わる』(ナカニシヤ出版、2012年)。
- ・清水亮・橋本勝編『学生・職員と創る大学教育』(ナカニシヤ出版、2012年)。
- ・清水亮・橋本勝・松本美奈編『学生と変える大学教育』(ナカニシヤ出版、2009年)。
- ・大学コンソーシアム京都『組織的FDの取り組み～FD義務化から現在(いま)～(第16回FDフォーラム報告集)』(2011年)
- ・服部憲児「学生参加型FDの現状と実践上の課題」『大阪大学人間科学研究科紀要』第38号(2012年)
- ・早田幸政・諸星裕・青野透編『高等教育論入門』(ミネルヴァ書房、2010年)。
- ・安田淳一郎・近田政博「教育改善活動に参加する学生の意識変化—名大物理学教室における学生教育委員会の事例—」『名古屋高等教育研究』第9号(2009年)。